

事例 22 おおすぎだに 大杉谷森林生態系保護地域における森林再生の取組

(近畿中国森林管理局)



- ・三重県 多気（たき）郡 大台町（おおだいちょう） 大杉谷国有林
- ・左：ボランティアによるササ刈り作業
- ・右：ボランティアによる樹幹ネット巻き作業

三重県に位置する大台ヶ原^{おおだいがはら}・大杉谷周辺は、カシ類を主体とした常緑広葉樹林、ブナ等を主体とした落葉広葉樹林、トウヒやウラジロモミ、コメツガを主体とした常緑針葉樹林など多様な森林によって構成されています。近畿中国森林管理局では、この豊かな森林を守り、末永く後世に伝えていくため、大杉谷国有林の一部を「大杉谷森林生態系保護地域」に設定し、厳格に保護・管理を行っています。

しかし、ここ数十年の間に一部地域において、林床にミヤコザサが侵入し、ミヤコザサを餌とするニホンジカが増加しました。シカが樹皮や稚樹を食べ枯死させることから、樹木の立ち枯れが急速に広がっています。三重森林管理署では、食害に遭いやすいトウヒ、モミなどを守るため、樹木の幹の部分にネットを巻き、また稚樹の周囲に防護柵を設置するなどの保護対策を講じています。

令和元年度も、これらの保護対策のほか、植生保護作業体験イベント「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」を開催し、ボランティアの方々に樹木のネット巻きやシカ防護柵内のササ刈りの作業を行っていただくなど、地域の方々と協力しながら保護林における森林再生に取り組みました。